あいち農産物生産流通レポート

平成２０年６月号

◎情報サロン
・第８回全国菜の花サミットin信州・大町が開催されました ---------- 1
（食育推進課）
◎地域トピックス
・海部苗木花き展示品評会が開催されました ---------- 2
（海部農林水産事務所）

◎東日本情報
・東京都中央卸売市場における輸入野菜の動向(秋冬期) ---------- 3
（東京事務所）
◎西日本情報
・ＪＡＳ法の適用範囲が広がりました！ ---------- 5
（食育推進課）
◎フラワーページ
・輸入切花の現状 ---------- 7
（東京事務所）
◎青　果
・愛知産青果物の動向（名古屋・東京市場） ---------- 8
・名古屋・東京市場における青果物の６月の見通し ---------- 9

◎花　き
・切花・鉢花の６月の見通し（県内市場） ---------- ２１

◎輸出入
・主要農産物の輸出入実績（２００８年３月） ---------- ２５

◎関連指数 ---------- ２６

内容についての問い合わせ先
愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ　(03)-5492-5400
愛知県農林水産部食育推進課　(052)-954-6417

情 報 サ ロ ン

食　育　推　進　課

「第８回全国菜の花サミットｉｎ信州・大町」が開催されました

８回目の全国菜の花サミットが、平成２０年５月１７日～１８日の２日間、立山黒部アルペンルートの長野県側玄関口である大町市で開催されました。サミット当日は好天に恵まれ、山頂に雪を冠した北アルプス連峰や色とりどりの花々が、参加者５００余名を迎えてくれました。

今回のテーマは「食油文化の再生」で、１日目のシンポジウムでは、フランス料理の石鍋裕シェフと近畿大学アンチエイジングセンターの山田秀和教授がゲストで出席され、食と医の両面から、また、菜の花プロジェクトのテーマである「食とエネルギーの地産地消」についても意見交換が行われました。

全国の菜の花プロジェクトの活動団体を紹介するプログラムでは、１団体７分の持ち時間ではすべて語りきれないほどの活発な活動事例を聞くことができました。

また、その後の交流会では、地場食材やなたねオイルを使った自慢料理を、全国のさまざまな年代の人たちと楽しみました。

２日目は､「菜種の生産と搾油｣､「ＢＤＦ」、「生きがい･教育」､「食の地産地消」など、参加者は１１の分科会に別れ、現在の活動における問題点や今後の展望について活発な意見交換を行いました。さらに、昼の休憩時間には、大町駅前本通り商店街振興組合の地域通貨（アルペン）が体験できるなど、実に多彩な内容となっていました。

今回、菜の花サミットに参加して、あらゆる年代の人たちが、全国各地で地球温暖化防止の活動や循環型社会をめざして、真摯に取り組んでいるということを実感することができました。

愛知県では、平成１７年度から菜の花エコプロジェクトの事業を開始し、年度ごとに目標を定め、取り組んでいるところです。今年度は８月にウィルあいちにおいて、県内の活動団体や個人を対象とした「菜の花エコプロジェクト交流会（仮称)」を予定しています。今回の全国菜の花サミットで得られたものを、今度の愛知県の交流会に活かしていきたいと思っています。皆様の御参加をお待ちしています。

地域トピックス

海部農林水産事務所

海部苗木花き展示品評会が開催されました

平成２０年４月１１日（金）から１３日（日）にかけて弥富市の「海南こどもの国」において、「海部苗木花き展示品評会」及び「展示即売会」が海部苗木花卉生産組合連合会の主催で開催され、海部地域で生産された鉢花・切花・観葉植物など多くの花と緑が一堂に集結しました。当地域は、ポインセチア、ブーゲンビレア、ベゴニア等の鉢花生産が盛んで、切花でも県内生産量の 100%を占める四季咲き性のカラーを始め、花しょうぶ、花はす等の産地でもあります。近年では、消費者志向の多様化に対応し、生産する種類も増やしています。

品評会には、植木苗木・観葉の部 18 点、切花の部 31 点、鉢花の部 63 点の計 112 点が出品され、特選 20 点、入選 30 点の計 50 点が選ばれました。その中から、愛知県知事賞の鉢花部門に中野真宏さんのミニガーベラ、切り花部門に石垣謙治さんのユリ（ソルボンヌ）、植木苗木・観葉部門に服部宗彦さんのアイビーの３点が選出されました。上位入賞作品は会場内で展示された後、即売されました。

土曜日と日曜日は天候にも恵まれ、即売会場は大勢の家族連れでにぎわっていました。気に入った花に見入ったり、生産者と会話したり、会場内は和気あいあいとした雰囲気でした。また、良い物が市価より安く販売されているとあって、たくさんの買い物をしていく姿も見られました。花苗の無料配布も２日間で計４回行われ、配布時間の 30 分前から行列ができ、各回先着 150 名の花苗があっという間に無くなるほど盛況でした。

日曜日には、フラワーアレンジ教室や、各自即売会場で選んだ好きな花を用いた寄せ植え教室も開催されました。

この展示品評会は、消費者に花に親しんでもらう良い機会となり、歴史ある海部地域の花き生産の振興と地域の人々へのＰＲという役割を担っています。

東 日 本 情 報

東京事務所農産物流通対策グループ

東京都中央卸売市場における輸入野菜の動向（秋冬期）

中国産餃子の殺虫剤混入事件や冷凍ほうれんそうの農薬残留などに対する不信から消費者の中国産離れが進んでいる。東京都中央卸売市場での、秋冬期（平成１９年１０月～平成２０年３月）における輸入野菜の入荷状況について取りまとめた。

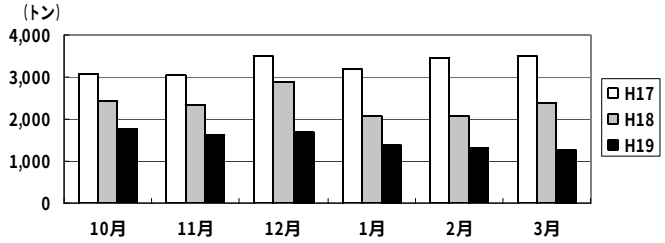
平成１９年１０月から平成２０年３月までの東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は７８５千トン（平均単価：２２０円/kg）で、前年比０．７％増と前年並であった。うち外国産は２７千トン（同１６．８％減）であった。一昨年の同時期と比較すると、野菜全体の入荷量は２．４％増加したが、外国産は、一昨年の６５．２％と大幅に減少した。

外国産の入荷量を生産国別に見ると、中国、ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ、メキシコの順であり、中国産の減少率が高く、平成１９年度の外国産の減少は９割がた中国産によるものである。また、品目別に見ても「さといも」、「ねぎ」など中国産のシェアの高いものほど減少率が高い。

表 都中央における国別入荷量（10～3月）　　単位：t

平成19年度		平成18年度		平成17年度	
中国	8,958	中国	14,149	中国	19,787
ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	7,688	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	7,625	米国	5,749
メキシコ	4,985	メキシコ	5,239	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	5,434
米国	2,010	米国	1,612	メキシコ	5,269
ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	937	トンガ	1,125	トンガ	2,066
その他	2,868	その他	3,223	その他	3,777
合計	27,447	合計	32,973	合計	42,082

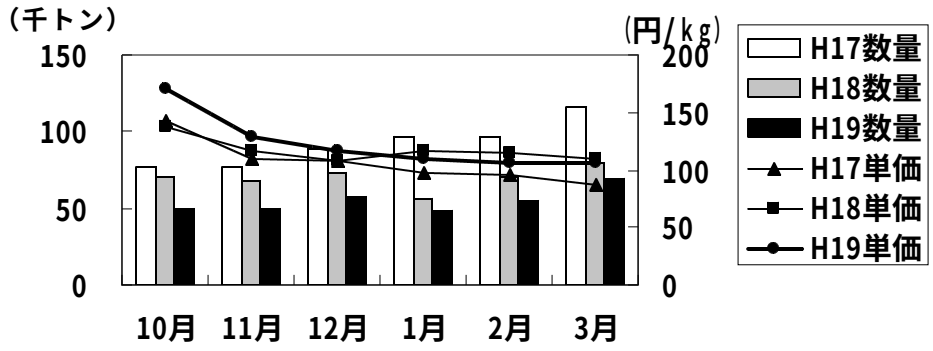
図1　中国産輸入野菜の入荷量の推移



なお、財務省貿易統計による生鮮野菜の輸入実態を見ても、全体的に減少する傾向となっており、平成１９年１０月から平成２０年３月までの野菜の入荷量は、前年の同期間と比較すると７，６６９トン、前年と比べて７８．７％、一昨年比では５９．６％と大幅に減少した。

品目別には、「ねぎ」、「しょうが」、「さといも」の減少率が高い。これは中国産農産物に対する不信により、中国産離れが進んだことによると考えられる。

図2　輸入農産物の推移（財務省貿易統計より）



・主な輸入減少品目　　（　）内は前年対比％

１２月：さといも（３８）、なましいたけ（４９）、ねぎ（７１）、かぼちゃ（７２）

１月：なましいたけ（４４）、さといも（５１）、しょうが（６１）、ブロッコリー（６５）、ねぎ（７６）、にんじん・かぶ（８１）、にんにく（８４）

２月：さといも（４７）、ごぼう（６６）、ねぎ（７６）、にんじん・かぶ（７７）、かぼちゃ（７８）

３月：さといも（２０）、ねぎ（５２）、しょうが（６２）、たまねぎ（７４）

※財務省「貿易統計」より

◎　まとめ

市場からは、通常は仕入れないような業務筋の業者が市場で買っているという情報もあり、大田市場でも青森県産のにんにくが３千円/kg を超える価格で取引されるなど、国内産の価格が高騰した場面もみられた。

このような動きは、今までいかに中国からの輸入野菜に依存してきたかということを、我々流通関係者のみならず、一般消費者にまで知らしめることとなった。

しかし、国内産野菜にとって追い風の現状が、このまま長続きするとは思えない。生産資材や燃料価格の高騰などの課題はあるが、「安全・安心」を売りに、愛知産農産物が伸びていくことを期待したい。

西 日 本 情 報

食 育 推 進 課

ＪＡＳ法の適用範囲が広がりました！

加工食品については、製造業者等が原材料の調達から商品の出荷に至るまでの一連の製造工程を管理していることから、最終製品の製造業者等に表示義務を課せば、表示の正確性を確保することができると考えられていました。しかしながら、平成１９年に発覚した牛ミンチ事案では、原材料供給者の不正によって、不適正表示の製品が全国に出回るという事態が生じました。

こうした事態を受け、不正表示に対する抑止力を高め、最終製品に正しい表示が行われるようにするため、平成２０年４月１日から、業者間取引における情報伝達が、ＪＡＳ法に基づく品質表示基準の対象となりました。

このため、加工食品の原材料となる生鮮食品の販売業者や業務用加工食品（外食・インストア加工向けの食品を除く）の製造業者等は、名称などを表示する必要があります。

なお、外食やインストア加工向けのみに供給されることが確実な原材料については、従来と同様に、表示義務の対象ではありませんが、販売先の使用用途が外食等向けのみかどうか不明な場合は、表示義務の対象となりますので、ご注意願います。

■　業者間取引における義務表示事項

生鮮食品	名称 原産地 （内容量 販売業者名及び住所）	（最終製品において原料原産地名の表示が義務付けられていない商品の原材料として使用されることが確実な場合、原産地の表示を省略することができる。） ※　内容量、販売業者名及び住所は、計量法で記載が義務付けられているもの
加工食品	名称 原材料名 製造業者名及び住所 （内容量 賞味期限 保存方法 原料原産地名 原産国名）	※　内容量は、計量法で記載が義務付けられているもの ※　賞味期限及び保存方法は、食品衛生法で記載が義務付けられているもの ※　原料原産地名は、最終製品において原料原産地名の表示が義務付けられている２０食品群等の用に供するものであって、その主な原材料を含むもの ※　原産国名は、輸入品

■　業者間取引における表示方法

加工食品を一般消費者に販売する場合には、容器・包装に表示する必要がありますが、業者間取引では、容器・包装に限らず、送り状、納品書等※1又は規格書等※2に表示することができます（食品衛生法及び計量法で容器・包装に表示することが義務付けられている場合を除く。）。

なお、規格書等へ記載する場合には、容器・包装、送り状又は納品書等において発送、納品された製品が、どの規格書等に基づいているのかを照合できるようにすることが必要です。

※1　送り状、納品書等とは、伝票、インボイス等など製品に添付されて相手側に送付されるもののこと。

※2　規格書等とは、製品規格書、配合規格書、納品規格書、仕様書等と称される製品に添付されないものであって、取引の当事者間で内容について合意がなされているもののこと。

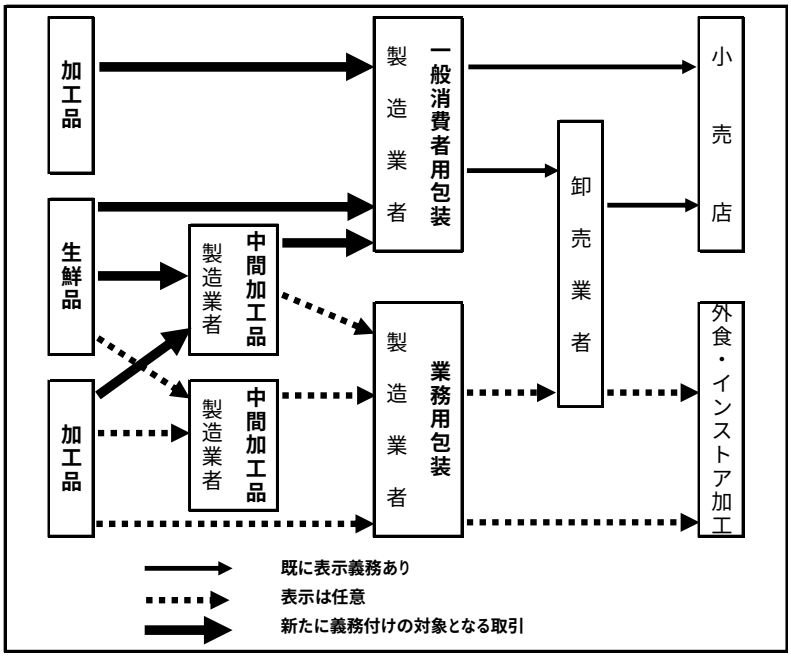
■　表示の根拠書類の整備、保存

概ね３年を目安として保存することが望ましいとされています。

■　品質表示基準に違反した場合の措置

品質表示基準に違反した場合は、表示事項を表示し、又は遵守すべき事項を遵守すべき旨を指示することがあります。この場合、その内容を原則として公表することとなります。

■　義務化のイメージ



業者間取引関係に関するＱ＆Ａが、農林水産省のホームページ（http://www.maff.go.jp/j/jas/index.html）に掲載されていますので、参考にしてください。

フラワーページ

東京事務所行政課農産物流通対策グループ

輸入切花の現状

最近、輸入切花が増加している。財務省「貿易統計」によると平成１９年の全国の切花の輸入は、重量ベースで３５千ｔ（前年比１０２％)、金額ベースで２８０億円（同１０７％)。 品目別には、キク類、バラ類が昨年よりやや減少しているものの、カーネーション類、ゆり属は引き続き増加している（表１参照)。平成１６年と比較すると、キク類は重量ベースで２．４倍で、中国産やマレーシア産が増加している。また、カーネーション類は同１．６倍となり、従来のコロンビア産に加え中国産の増加が顕著である。

東京都中央卸売市場での平成１９年の輸入切花の入荷は、１０７，３７２千本、全入荷量に占める割合は１０．０％と昨年に引き続き増加している。品目別の入荷量に占める輸入ものの割合は洋ラン類やカーネーション類などが高くなっている。キク類ではスプレータイプは２０．９％と入荷に占める輸入の割合が高くなっている（表２参照)。

表１　平成１９年切花輸入実績

	輸入数量（ｔ）	前年対比 (%)	輸入金額 (100 万円)	前年対比 (%)	主な輸入先とシェア ( )内は%
キク類	１３，１５１	98	８，０９７	116	ﾏﾚｰｼｱ(58)、中国(40)
ｶｰﾈｰｼｮﾝ類	６，１７０	115	５，５９６	118	ｺﾛﾝﾋﾞｱ(53)、中国(40)
バラ類	３，６５４	91	２，２２３	99	韓国(47)、ｲﾝﾄﾞ(23)、ｹﾆｱ(10)
ゆり属	１，９１８	150	６２１	119	韓国(98)
らん属	６，３６２	103	６，８５３	109	ﾀｲ(64)、台湾(18)
その他	３，６００	91	４，６０６	96	－
輸入総量	３４，８５５	102	２７，９９６	107	

財務省「貿易統計」（暦年）より

表２　都中央における輸入切花本数と占有率

	入荷本数（千本）	輸入占有率（%）	主な輸入先
キク類	１９，０９７	６．４（　５．８）	
うち輪ギク	４，３０４	２．７（　２．４）	中国、台湾
うちｽﾌﾟﾚｰ ｶｰﾈｰｼｮﾝ類	１４，４５６	２０．９（２９．６）	マレーシア
	２６，５２５	２５．２（１９．６）	コロンビア
バラ類	２０，３４６	１８．４（１８．４）	ケニア、インド
ゆり類	１，１６０	３．２（　２．４）	台湾
洋ラン類	２６，１１７	８３．３（７８．３）	台湾、タイ
その他	１４，１２７	－	－
輸入総量	１０７，３７２	１０．０（　９．７）	

東京都中央卸売市場年報より　　※（　　）内は前年占有率

愛　知　産　青　果　物　の　動　向

○　名古屋市中央卸売市場（品目：おおば）

	入　荷　量（ｔ）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１９年実績	２４	２２（９２%）	１,８７８	１,９０７	高知　（　８%）
２０年見通し	２４	２２	１,９００	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
ほぼ、地元愛知からの入荷である。天候による生育遅れなどもなく、順調である。 最近では、シソ斑点病に強く、香りのよい「愛経１号」のなど新品種も開発され、普及が見込まれる。 入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに下回る見込み。	ツマとしての用途が多いが、健康野菜としての認識を広げるよう、ジュース等の新たな用途の紹介するなど、より一層のＰＲが望まれる。 出荷の際は、髪の毛などの異物混入に注意するとともに、気温上昇に伴って傷みがちになるので、病気のないものを選んでほしい。

○　東京都中央卸売市場（ハウスみかん）

	入　荷　量（ｔ）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１９年実績	７９１	１１８（１５%）	１，０３９	１，１７０	佐　賀　（　51%） 大　分　（　15%） 長　崎　（　8%）
２０年見通し	７７０	－	１，０５０	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
佐賀を中心に愛知、大分、長崎から入荷する。６月に出荷する作型は、燃料高騰の影響から愛知は大きく減少している。佐賀、大分は前年並。 全体の入荷量は、前年をやや下回ると見込まれる。価格は高かった前年並で推移すると見込まれる。	ハウスみかんは５月から７月にかけてのギフト商材として定着している。 愛知産は、食味などの品質管理がしっかりされており、果専店や量販店などから信頼されている。出荷にあたっては、今年も着色、浮皮に注意してほしい。

関　連　指　数

項目 / 年月		消費者物価指数（全国　平成17年＝100　愛知県　平成17年＝100）				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年平均	100.3	103.1	109.3	102.7	103.1
	20年 1月	100.7	104.9	103.8	105.2	104.1
	2月	100.5	105.0	99.0	105.6	103.1
	3月	101.0	108.1	95.7	106.0	104.6
愛知県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年平均	100.5	100.3	111.1	100.7	103.5
	20年 1月	100.4	98.2	99.9	102.1	102.9
	2月	100.1	99.1	97.5	104.0	99.0
	3月	100.8	102.6	97.3	104.7	104.9

資料　全　国‥総務省統計局「消費者物価指数月報」
　　愛知県‥愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

項目 / 年月	農業物価指数　（平成17年＝100）				
	農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
19年11月	94.7	91.5	94.0	113.2	99.2
12月	98.0	92.5	106.9	98.1	101.7
20年 1月	92.7	91.9	101.0	72.8	97.2
2月	99.7	92.3	117.6	83.9	100.7
3月	102.2	92.1	120.8	79.5	102.4

資料　農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

名古屋市小売価格（円）

品目 / 単位 / 年月	うるち米(単一品種、「コシヒカリ」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご（ふじ）
	5kg	1kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年平均	2,229	147	153	589	440	269	137	295	203	530	629	206	535
20年 1月	2,198	135	116	610	396	271	114	260	201	666	642	220	468
2月	2,223	158	122	619	497	249	114	253	199	751	601	216	458
3月	2,223	173	214	633	491	255	153	367	203	525	629	215	476

品目 / 単位 / 年月	みかん	グレフルプリーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウフイルーツ	緑茶（せん茶）	カーネーション	きく	バラ	豚肉（ロース）	牛肉（ロース）	まぐろ
	1kg			100g	1kg		100g	1本			100g		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年平均	689	356	509	165	258	705	602	163	170	315	221	776	506
20年 1月	446	424	467	172	253	645	616	160	168	314	225	772	543
2月	427	379	416	158	253	653	594	163	171	340	223	826	504
3月	483	342	435	142	263	655	602	166	182	335	231	832	497

資料　総務省統計局「小売物価統計調査報告」

あいち農産物生産流通レポート　№420
平成２０年６月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目１番２号
電話　（０５２）９５４－６４１７